昭和26年3月12日第3種郵便物認可　平成28年7月1日発行（毎月1日発行）第66巻 第7号
ISSN 0913-9850

2016 Vol.66
7月号

MONTHLY かもつ

平成28年度定時社員総会を開催

12mの丸鋼を40ft無蓋コンテナで名古屋(タ)へ鉄道輸送
JFEスチール株式会社

公益社団法人 鉄道貨物協会
日本貨物鉄道株式会社

公益社団法人 鉄道貨物協会

我が国の貨物輸送の分野について、物資の安定・供給及び地球環境負荷（輸送量当りのCO_2排出量）の観点から、輸送方法の研究及び研究成果の普及啓発活動を行い、以って国民の生活に不可欠な物資の安定供給及び地球環境の保全に資することを目的とする。

JR貨物

価値を運ぶネットワーク

私達は鉄道貨物輸送を基軸としてその未来における新しい役割を認識するとともにより総合的な物・価値・情報の交流を創造しお客様の信頼に応え豊かな社会の実現に貢献します。

Index

表2 土木・建築遺産

1 平成28年度 定時社員総会を開催
ご挨拶 公益社団法人 鉄道貨物協会 名誉会長 榊原 定征
ご挨拶 公益社団法人 鉄道貨物協会 理事長 米本 亮一
祝 辞 国土交通省鉄道局 官房審議官 水嶋 智 様
祝 辞 日本貨物鉄道株式会社 代表取締役社長 田村 修二 様
5 平成28年度 本部表彰
6 本部委員会合同企画（研究発表・現地調査・委員会審議）
9 G7富山環境大臣会合関連の展示会「とやま情報館」に出展 北陸支部
こんなところにエコレールマークが!!
10 2016貨物時刻表が「男の隠れ家」で紹介されました。
11 支部自慢 広島支部

12 FREIGHT EYE

14 新規会員企業紹介 株式会社ポポンデッタ
15 協会ニュース／リフレッシュクイズ

16 モーダルシフト
JFEスチール株式会社
20 貨物鉄道の仕事ガイド 青森総合鉄道部
22 SPOTLIGHT 日本オイルターミナル株式会社
24 トピックス
表3 今月号の「表紙写真」 今月号の「FREIGHT EYE」
JR貨物輸送概況

平成28年度 定時社員総会を開催

ご挨拶

公益社団法人 鉄道貨物協会
名誉会長 **榊原 定征**

代読された日本経済団体連合会
根本常務理事

鉄道貨物協会定時社員総会の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

まずは、ご多忙にもかかわらず、ご来席いただきました、来賓の国土交通省鉄道局審議官水嶋智様、日本貨物鉄道株式会社代表取締役社長田村修二様、そしてご出席の皆様に、厚く御礼申し上げます。また、先日発災いたしました熊本地震により亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、わが国経済は、この3年半のアベノミクスの経済政策によって、緩やかではありますが、回復の基調を辿っていると言うことができると思います。足許を見ましても、今年1−3月期の実質GDP成長率は、年率換算でプラス1.7%となりました。GDPの約6割を占める個人消費がプラスに転じたことは、明るい材料であります。ただ、国民の消費マインドが回復しているとは、未だ言い切れない状況であると思います。

こういった課題を乗り越えて、デフレからの脱却と経済の再生を確実に実現するため、今は正に、正念場の時であると考えます。

こうした中、鉄道貨物輸送は、広域にネットワークを構成し、わが国の経済活動を根底から支える国民的財産であり、物資輸送の効率性に加え、環境負荷が少ないという特性をあわせ持つことから、その重要性が高まっております。

特に、少子高齢化の進展により、大型自動車免許の保有者がこの5年間で約10万人減少し、物流を担う人材の不足が懸念されていること、また、環境面においても、COP21において、全ての主要排出国が気候変動対策に取り組むことを約束するパリ協定が採択されたことから、トラック輸送から鉄道貨物輸送へのモーダルシフトの動きが一層注目をされております。

当協会といたしましても、鉄道貨物輸送の特性や長所を調査・研究し、これらを普及・啓発していくとともに、エコレールマークの普及活動のさらなる展開を通じて、地球環境を守るための活動に取り組んでまいります。

当協会では、引き続き行政等の関係機関の皆様、並びに、会員でいらっしゃる荷主企業、利用運送事業者、鉄道事業者など、皆様と一体となって、鉄道貨物輸送のさらなる普及・啓発に取り組んでまいる所存です。今後とも倍旧のご指導、ご鞭撻をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、ご来賓並びに会員の皆様方の益々のご繁栄とご健勝を心より祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

5月23日(月)に如水会館(東京都千代田区)において、平成28年度定時社員総会が開催されました。次第に従い進められ、全ての議案は原案通り承認されました。

定時社員総会終了後、直ちに開催された第18回理事会において、中島覚理事が常務理事に選任され、当協会の新しい執行体制が決定しました。

● 定時社員総会　次第 ●

1. 開　　会
2. 名誉会長挨拶
3. 理事長挨拶
4. 来賓祝辞
5. 表　　彰
6. 議長選出
7. 議案審議
   - 第1号議案 平成27年度事業報告及び決算報告について
   - 第2号議案 役員の選任について
   - 第3号議案 平成27年度会員等の入会及び退会について
   - 第4号議案 政府等関係機関への要望書について
   - 【報告事項】平成28年度事業計画及び予算について
8. 閉　　会

ご挨拶

公益社団法人 鉄道貨物協会

理事長 **米本 亮一**

ただ今ご紹介をいただきました米本でございます。時節柄何かとお忙しいところ、かつ本日は真夏日という状況の中、水嶋審議官、田村社長の両ご来賓を始め会員の皆様方には多数ご出席くださいまして、誠にありがとうございます。常日頃は皆様方から各方面・各分野に亘りましていろいろとご支援・ご指導を賜っておりますこと、改めて御礼申し上げる次第でございます。

さて、平成27年度の具体的な活動状況を2～3ご紹介申し上げ、私の挨拶に代えさせていただきたいと思います。

まず第1番目は、鉄道の「利用促進」と「輸送品質の向上」という当協会の最もベーシックな課題について、本部・支部に委員会や利用促進会議を設けまして、関係の荷主企業会員の方々のご指導を得ながら取り組んでまいりました。具体的な取組み事例を紹介させていただきますと、利用促進につきましては、定温コンテナ輸送の利用実態等についてかなり突っ込んだ調査・研究を行い、それなりのまとめをいたしました。また、輸送品質の向上につきましては、荷擦れ・荷崩れの防止対策について過去4年間取り組んでまいりましたが、昨年度はそれを総まとめいたしました。これを近々、当協会のホームページにも掲載する予定でございます。

次に鉄道貨物輸送の普及・啓発活動といったテーマでございますが、具体的なツールとして会誌「マンスリーかもつ」や「貨物時刻表」等々にも掲載し、積極的に取り組んでまいりました。こうした活動が背景となり、昨年度は例えば、朝日新聞に貨物時刻表の紹介記事が掲載されるということがあり、これを通じて鉄道貨物輸送を広く知っていただくことができたと感じております。

続いてエコレールマーク事業の関連でございますが、一昨年度300件の大台を突破し、認定件数は312件に到達しました。具体的なトピックスを申し上げますと、平成28年度福岡県立高校の入学試験問題にエコレールマークが採用されました。以前もいくつかの県でエコレールマークの出題がありましたが、今回は福岡県ということでございました。それから、東京書籍が発行する平成28年度の中学校社会科「公民」の教科書に、環境ラベルのひとつとしてエコレールマークが掲載されております。これらのことは中学生が社会に巣立つ10年先のことを考えると非常に意義のあることではなかろうかと、エコレールマークは鉄道貨物輸送の認知度向上に役立ちつつあるのかなと思っている次第でございます。

4番目は、会員の増加活動についてでございます。昨年度はかなり多くの方に当協会へご入会いただきました。しかし一方で退会される会員もございまして、結果としてはほんの少し増加ということでございました。もっとも私どものようなこういった活動では、どの団体も会員が減りつつある現状に頭を痛めているというような話を聞いております。そのような状況の中でかろうじてトータルで増加に転じることができたのは、ひとえに本日ご出席の皆様方のご支援の賜物であると改めて御礼申し上げる次第でございます。今年度もとにかく会員を増やしてまいりたいと思っておりますので、引き続き、ご支援・ご協力・ご指導のほどよろしくお願いいたします。

最後になりますが、平成28年度におきましても諸々の課題につきまして、積極的に取り組んでまいる所存でございます。昨年度同様、どうぞご支援・ご協力・ご指導のほどよろしくお願いいたします。簡単ではございますが、挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

祝　辞

国土交通省

鉄道局官房審議官　**水嶋　智**様

本日、ここに公益社団法人 鉄道貨物協会 平成28年度定時社員総会が開催されるにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、日頃から国土交通行政に対するご理解、ご協力を賜りまして大変ありがとうございます。深く御礼申し上げます。

貴協会におかれましては、長年にわたり鉄道貨物輸送の発展のために、多大な成果をあげてこられました。具体的には、JR貨物と荷主企業、利用運送事業者の皆様方が、「利用促進委員会」及び「輸送品質向上委員会」の会合を重ねてこられて、鉄道貨物輸送に関する課題や要望点について調査検討されまして、その成果を広く公表されてこられました。また、貴協会に事務局となって進めていただいております「エコレールマーク」の取組みも、認定件数は312件に上っているということで、着実な広がりをみせております。

こうした取組みを通じまして、国民の皆様の生活に不可欠な物資の安定供給と、地球環境の保全の実現に携わってこられたということでございまして、私どもとしても貴協会の活動に対し、心より敬意を表する次第でございます。

また、4月14日以降に発生いたしました熊本地方における一連の地震で亡くなられた方には心よりご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げる次第です。鉄道におきましても、九州地方の多くの鉄道路線が被災をいたしました。貨物鉄道につきましても列車の運休といった影響があったところでございますけれども、迅速な復旧作業の実施により4月中に運転を再開することができました。JR貨物におかれましては、被災地向けの救援物資の輸送対応のために臨時列車の運行をしていただき、また、利用運送事業者と連携していただきまして、各企業の皆様が被災自治体に送られる救援物資について無料輸送を実施していただきました。これら一連の取組みが熊本地方の復旧に多大な貢献、あるいは大きな励みになったことは申し上げるまでもございません。携わっていただきました多くの関係者の皆様のご尽力に対しまして、改めて深く御礼申し上げる次第でございます。

さて、我が国の鉄道貨物輸送の動向でございますが、昨年度のJR貨物のコンテナ輸送実績は、前年度比2.7%の増加という実績でございます。また、コンテナ列車積載率も80%を超えている、定時運行率も約94%まで向上したというふうにうかがっております。

ご存じのとおり貨物鉄道は、地球環境にやさしい大量輸送機関として大変重要な役割を果たしております。また、今、労働力の不足というのが大変深刻な問題になってきております。貨物鉄道は少ない労働力で大量の貨物を輸送することができるということで、近年の物流業界における労働力不足に対応するといった観点からも、貨物鉄道への期待が高まっているのかなと思っております。

国土交通省といたしましても、我が国が人口減少時代を迎える中で、生産性をいかに向上するか、ということで経済成長を確保できるように、国土交通省が所管しております様々な分野の中で「生産性革命」に取り組もうという方針でやってきておるところでございます。その意味では、貨物鉄道へのモーダルシフトは、物流分野で大きく生産性革命に貢献するものではないかと考えております。

このため、今通常国会におきまして、省の物流部門が立案いたしました「物流総合効率化法」の改正案を提出していたところですが、5月2日に無事可決、成立をいたしました。この改正法におきましては、予算・税制支援の前提となります総合効率化計画の対象として、「効率性の高い輸送手段」を選択するモーダルシフトの取組みを新たに位置づけることとしております。国土交通省としてはこの法律の枠組みを活用いたしまして、これまで以上に力強くモーダルシフトを進めてまいりたいと考えています。

また、貨物鉄道へのモーダルシフトを促進するため、31フィートコンテナの導入支援、低床貨車による国際コンテナ輸送の実証実験なども行っているところでございまして、引き続き予算措置や税制措置を含めまして、総合的な支援を充実させてまいりたいと考えております。

本日ご列席の荷主企業の皆様方におかれましても、ぜひ貨物鉄道を積極的にご利用いただきまして、安定的な物流体制の構築に役立てていただきますようにお願い申し上げる次第でございます。

最後になりましたが、公益社団法人 鉄道貨物協会のますますのご発展と、本日ご列席の皆様方の一層のご繁栄を祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

祝　辞

日本貨物鉄道株式会社

代表取締役社長　**田村 修二**様

公益社団法人鉄道貨物協会、並びに会員各社の皆さまにおかれましては、日ごろより多大なるご愛顧とご支援を賜っており、高いところからではありますが、厚く御礼申し上げます。また、熊本の地震から1ヶ月が経ったところですが、亡くなられた方々に対し、謹んでお悔やみ申し上げるとともに、被災された方に、あらためてお見舞い申し上げます。

それでは、弊社の近況等を申し述べ、ご挨拶に代えさせていただきます。

昨年度を振り返りますと、下期、とくに11月頃から、中国経済の急減速や原油安に端を発する世界経済異変、さらには暖冬の影響により、国内の生産活動、消費活動が落ち込み、荷動きの停滞があったものの、北海道からの農産品が好調に出荷されたことに加え、トラックドライバー不足を背景に、とくに食品や積合せ貨物等の多くのお客様がモーダルシフトを進めていただいたこともあり、コンテナについては前年度を上回り輸送量で26年度比102.7%のご利用をいただきました。純平日の積載率は80%を超え、定時運行率も改善して94.4%と良好な成績でありました。

冒頭も申し上げましたが、4月の熊本地震の際は、JR九州および肥薩おれんじ鉄道線が一時全線で運転見合せとなりました。弊社は1度目の地震の翌日よりオール通運対策会議を開催し、折り返し運転と不通区間のトラック代行輸送を開始いたしました。1週間ほどで貨物列車の運転する区間はすべて運転再開となり、通常運転に戻りました。

震災発生直後、国土交通省より鉄道による災害支援物資輸送の協力要請のご連絡をいただきました。これを受け、弊社は東京～大阪間の定期列車に繋げる形で九州に向けた臨時列車の運転を延べ15日間行い、被災地に向けた救援物資等を輸送し、非常に高い積載率でご利用いただきました。

また、（公社）全国通運連盟殿と連携して、被災自治体が受入れを承認した企業等からの救援物資について無賃輸送を実施いたしました。

このような取組みにより、災害時のライフラインとしての鉄道貨物輸送の役割を務めさせていただきました。弊社は、今後も被災地の復興の一助となる取組みを進めてまいる所存です。

トラック代行輸送や無賃輸送にご尽力いただいた利用運送事業者の皆さまに、心より御礼申し上げます。

平成27年度の決算を先月発表しました。経常利益は59億円（前期比27億円増）を確保することができました。しかし、弊社の経営資源の大部分を投入している、柱の鉄道事業については、営業損益レベルで△33億円という赤字の状況が続いております。

今年度、弊社は鉄道事業黒字化を必達目標としております。営業面では、基本姿勢を「プロダクト･アウトからマーケット･インへ」と銘打ち、モーダルシフトを検討されている新規のお客様や、利用拡大を考えておられる既存のお客様への働きかけをさらに強化するとともに、31ftコンテナの増備（100個体制から40個増備）のほか温度管理コンテナや貨物駅における積替え施設等の新しいサービスの開発等に取り組み、お客様に選択していただけるよう一層の商品力向上を推進します。また、例えば混雑している区間においても、比較的余力のある週末の列車を有効に活用していくための施策や、低積載率列車に対する施策など、ソフト･ハード両面でのサービスレベルの向上に取り組んでまいります。

一方、経営面では、引き続き経営改革の3つの柱である意識改革、経営の計数管理の強化、組織改革に取り組むとともに、昨年度よりお願いしているORSの収支改善、車扱列車の収支改善、臨海鉄道との運賃配分の見直し等、長年の懸案であった構造的課題にも取り組んでまいります。

また、今年度は連結経営を本格化します。JR貨物グループの総力を結集して機能を発揮し、総合力を展開してまいります。さらに、インド、タイ等海外の鉄道への技術協力、運営協力へも積極的に対応してまいります。

ところで、鉄道へのモーダルシフトを進めていただくためには、安全･安定輸送により、お客様に安心してご利用いただける環境を整えることが重要であると認識しております。

とくに、3月26日（土）のダイヤ改正よりスタートしました青函トンネル区間の新幹線との共用走行につきまして、これまで安定的に列車を運行しておりますが、今後も安全を最優先に取り組んでまいります。

一方、お客様には、現在過積載防止はもとより、偏積や貨物の移動のない積み方をお願いしております。貨物鉄道を安全に運行するためのお願いであり、何卒ご理解を賜りたく存じます。

中期的には平成30年春に新幹線の高速化という課題を抱えており、国交省においてご検討いただいておりますが、基本姿勢は人流物流の共存共栄であります。弊社といたしましては、ご利用の皆さまと相談させていただきながら、物流に影響を出さないよう万全を期してまいる所存です。

先ほども申し上げた通り、ここ数年、モーダルシフトを検討されるお客様が増えていますが、これを支援していただく動きも拡大しています。そのひとつが先日5月2日に成立していただいた「改正物流総合効率化法」です。これによりモーダルシフトが法的に位置づけられましたので、弊社といたしましても、様々な知恵を出して、物流の効率化に取り組んでまいります。

また、貴協会が主体となって取り組んでおられる「エコレールマーク」制度も、社会での認知度が一段と高まっているところです。弊社もこの取組みを一緒に支えてまいりたいと考えております。

以上、弊社の近況についてご報告させていただきましたが、貴協会および会員の皆さまには、今後とも鉄道貨物輸送への温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びといたしまして、貴協会並びに本日ご出席の皆さまの、今後のますますのご発展を祈念してご挨拶とさせていただきます。

平成28年度 本部表彰

本年度は、当協会運営に協力され協会事業の発展に功績のあった12名の方に対して「協会事業協力者表彰」が、また鉄道貨物輸送業務に精励しその改善向上に貢献をされた14名の方に対して「鉄道貨物輸送功労者表彰」がそれぞれ贈呈されました。

定時社員総会の議案審議に先立ち表彰式が行われ、26名の受賞者を代表して王子製紙(株)米子工場 門脇浩二様及び(株)JAアグリエール長野 宮澤正俊様の両名に、米本理事長より表彰状と記念品が手渡されました。受賞者の皆様には心からお祝い申し上げ、更なるご活躍をお祈りいたします。

協会事業協力者表彰 受賞者

支部名	氏　名	会社・団体名
本　　部	川邉　秀人	日清オイリオグループ株式会社
北海道支部	奥　　明人	旭川通運株式会社
東 北 支 部	松田　順夫	塩竈港運送株式会社
高 崎 支 部	髙柳　　功	秩父鉄道株式会社
水 戸 支 部	太田　正明	茨城倉庫株式会社
東 京 支 部	保坂　　武	ヤマト運輸株式会社 通運支店
名古屋支部	鈴木　並生	丸共通運株式会社
名古屋支部	諸岡　道男	桑栄運輸株式会社
北 陸 支 部	関　　仁	北陸通運株式会社
近 畿 支 部	木下　博貴	全国通運株式会社 近畿支社
米 子 支 部	門脇　浩二	王子製紙株式会社 米子工場
九 州 支 部	北郷　　栄	鹿児島県経済農業協同組合連合会

(敬称略)

鉄道貨物輸送功労者表彰 受賞者

支部名	氏　名	会社・団体名
北海道支部	赤石美枝子	株式会社浜中運輸
東 北 支 部	山田　幸人	全農物流株式会社 東北支社
新 潟 支 部	松浦　孝夫	東北東ソー化学株式会社
宇都宮支部	渡辺　正則	全国通運株式会社
千 葉 支 部	大竹　伸明	日本通運株式会社 千葉中央支店 千葉コンテナ事業所
東 京 支 部	小松　久晃	福山通運株式会社
長 野 支 部	宮澤　正俊	株式会社JAアグリエール長野
静 岡 支 部	加来　芳彦	日本製紙株式会社 富士工場
名古屋支部	所　　雅人	日本通運株式会社 中京コンテナ支店
近 畿 支 部	海野　大輔	タカラ物流システム株式会社
岡 山 支 部	小嶺　安雄	福山通運株式会社 福山主管支店
四 国 支 部	松崎　一彦	大塚倉庫株式会社 四国支店
広 島 支 部	有馬　活樹	セントラル硝子株式会社 宇部工場
九 州 支 部	麻生　桂司	新日鐵住金株式会社 八幡製鐵所

(敬称略)

本部委員会合同企画

研究発表・現地調査・委員会審議

第1回　利用促進委員会見学会(H28.5.19)

6月号に引き続き、第1回利用促進委員会の見学会について報告する。本年度の調査テーマの一つである「鉄道コンテナ輸送における一貫パレチゼーションに向けた課題についての調査研究」の一環として、パレットによる輸送について先進的な取り組みを実施する事業所として、味の素物流(株)様の久喜物流センターの見学と、合わせて越谷貨物ターミナル駅の見学を輸送品質向上委員会委員のオブザーバー参加企画として実施した。

1. 味の素物流(株)久喜物流センター見学

味の素物流(株)久喜物流センターの会議室にて、味の素物流(株)理事であり、かつ利用促進委員会委員の魚住和宏様よりご挨拶を頂き、その後センターを紹介するDVDを視聴し、味の素物流(株)久喜営業所長の國松彰様からセンターの概要について説明を受けた。

味の素物流(株)久喜物流センターの最大の特徴は、免震構造の採用、自家発電機の設置、床のかさ上げ、各種安全管理システムの導入など、BCP(事業継続計画)対応を実現した構造を有していることである。

挨拶される魚住理事

センター概要を説明される國松所長

説明後の質疑応答を経てから実施した構内見学では、構内での入出庫作業や保管状況だけでなく、床下の免震構造の一部や自家発電装置、建物のかさ上げの様子などを見学することができた。

床下の免震装置を見る見学者

倉庫構内で國松所長の説明を聞く見学者

31ftコンテナをバックに見学者全員で撮影

見学終了後会議室にて、一貫パレチゼーション輸送において課題となるパレット管理に関して、加工食品メーカー各社が加盟する「P研」（JPR11型レンタルパレット共同利用・回収推進会）のパレット回収システムと久喜物流センター独自のパレット回収に関する取り組みについて説明を受け、加工食品メーカーの見学者のみならず、他業種の見学者からも活発な質問および意見交換がなされた。

質問する園本副委員長

2. 越谷貨物ターミナル見学

続いて参加者は、越谷貨物ターミナル駅へバスで移動し、高田駅長よりバスの中から駅構内や施設の説明を聞き、また現在JR貨物で取り組んでいる、偏積防止のためのポータブル重量計を用いた実際の測定を見学した。

駅構内見学後駅会議室にて、引き続き高田駅長より駅の概要説明を受け、その後越谷貨物ターミナル駅を紹介したDVDを視聴し、質疑応答を経て見学会を終了した。

駅概要を説明する高田駅長

コンテナの重量バランスチェック

第2回　輸送品質向上委員会（H28.5.27）

「偏積防止対策」の調査研究

平成28年度第2回輸送品質向上委員会では、「講演」、「研究発表」、「委員会審議」を行った。

平成24年に発生した北海道江差線の貨物列車の脱線事故について、平成26年7月に国土交通省の運輸安全委員会が調査報告書を発表し、その中でコンテナ貨物の左右の偏積によりレールに乗り上げ脱線したとの報告がなされた。さらに、国土交通省において開催された「鉄道貨物輸送における偏積対策に関する検討会」では、鉄道利用運送事業者にも偏積防止の対策が求められた。

これを受け全国通運連盟において、利用運送事業者が偏積を簡易的に防止するための「偏積防止マニュアル」を作成し、広く鉄道利用運送事業者に偏積防止を呼びかけたところである。またJR貨物においても偏積防止に向け、ポータブル重量計を導入し、全国12駅でコンテナの偏積調査を実施し、さらに輪重測定装置を4か所に設置し偏積防止に取り組んで来ている。

しかしながら、このような取り組みが広く荷主企業に十分紹介されていないのではと考え、今回の講演、研究発表を企画したものである。

1. 第1部：講演（両委員会合同企画）

A. 講師：（株）日通総合研究所 主任研究員　中嶋 理志様

B. テーマ：「偏積防止マニュアル：（公社）全国通運連盟作成」について

C. 講演のポイント

①偏積防止に関する各種の指針、②偏積による集配車両も転倒の危険性の検討、③偏積が車両に及ぼす影響の判定、④計測の手順、計測方法の事例、計測する場所、④偏積防止に向けたJR貨物の取り組み、⑤偏積率の計算事例、⑥偏積率が指針をオーバーする積載と解消の事例

講演する中嶋所長

偏積防止マニュアル

講演の場面

2. 第2部：研究発表（両委員会合同企画）

A. 発表者：JR貨物コンテナ品質管理部長　小林 重聡様

B. テーマ：「輪重測定装置の運用状況とコンテナの偏積事例について」

C. 発表のポイント

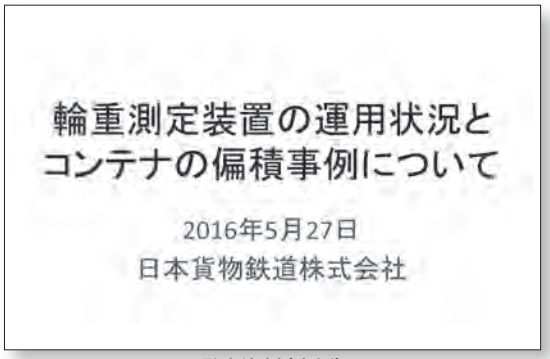
①コンテナを積載した貨車の安全走行を確認するため「輪重測定装置」を導入し、同装置を通過する貨車の輪重比が大きい場合、「偏積車両」として江差線（現：道南いさりび鉄道線）を通過するのを防ぐことを目的として平成28年3月より、本州向けは東室蘭駅及び函館貨物駅にて、北海道向けは盛岡（タ）、秋田貨物駅にて運用を開始している。

②過大輪重比の検知状況と具体的な偏積事例

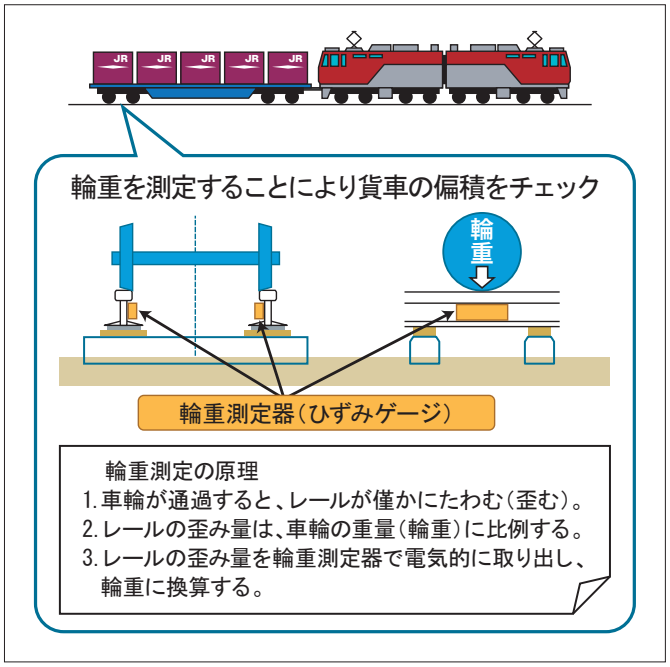
発表する小林部長

③ポータブル重量計による調査状況と具体的な偏積事例について

④トップリフターへの偏心荷重装置の導入：大型コンテナでの偏積率についても取り組む必要があることから、札幌（タ）、函館貨物、東青森、隅田川各駅に向けて進めている。なお、今年度は上記4駅の他、郡山（タ）、苫小牧貨物、大阪（タ）、吹田（タ）各駅にも配備予定である。



発表資料（表紙）



質疑応答の場面

3. 第3部：委員会審議

委員会審議は、年間テーマ及びサブテーマの取組状況について審議され終了した。

G7富山環境大臣会合関連の展示会「とやま情報館」に出展

北陸支部　●期日：平成28年5月13日(金)～16日(月)　●場所：富山県民会館(富山市)

フランスの政務官の来場

熱心に聞き入る来場者

展示に関心を示す親子連れ

北陸支部はJR貨物と共同で、G7富山環境大臣会合関連の展示会「とやま情報館」に出展しました。

平成28年は日本が議長国となりG7伊勢志摩サミットが開かれますが、関係閣僚会合のうち環境大臣会合が富山で開催されるのに伴い、環境関連の技術･取組みを幅広くPRすることを目的とし、G7富山環境大臣会合等推進協力委員会の主催により「とやま情報館」が開催されました。この展示会には、富山県内15市町村及び20企業･団体の出展がありました。

期間中、当支部のブースには約200名の来場があり、スタッフがパネルやパンフレットなどにより「鉄道貨物輸送が環境負荷の小さい輸送手段である」ことを主として、鉄道貨物輸送の仕組みやエコレールマーク制度などについて説明しました。

地元富山市民のみならず、G7富山環境大臣会合に関係する国内外の方の来場があり、鉄道貨物輸送について理解促進を図ることができた有意義な展示会となりました。

こんなところにエコレールマークが!!

(株)昭文社(東京都千代田区)から平成28年2月25日に発売された児童用ポスター教材「なるほどKids はっておぼえるいろいろなマークとひょうしき」に、エコレールマークが掲載されました。

みんなが知っているマークや標識と一緒に、**「地球を守るマーク」**として大きく紹介されています!たくさんの子ども達に、エコレールマークを覚えてもらえたら嬉しいな。

公益社団法人 鉄道貨物協会

2016貨物時刻表が『男の隠れ家』で紹介されました。

2016貨物時刻表が、月刊誌「男の隠れ家」4月号（2月27日発売）で紹介されました。編集部である株式会社プラネットライツの明知 友希穂さんにお話を伺いました。

――「男の隠れ家」の内容を教えてください。

読者は男性が8割を占め、熟年層の方が多いです。旅行にかかわる記事が多く、行きたい場所が遠方であったり、なかなか旅行にいけない方も多いので、そのような方々に「旅行に行った」気持ちになっていただけるような誌面構成にしています。またガイドブックでは知れない内容、例えば4月号であれば「桜のスポットをつないでいく」ような記事を提供しています。

Book

「2016貨物時刻表」3月発売
付録に最新のダイヤグラムつき

鉄道貨物協会は、JR貨物のダイヤ改正にあわせて、「2016貨物時刻表」(2500円)を3月26日(土)に発売。新聞やラジオでも紹介されたこの時刻表は、1991年の一般発売開始以来、多くの人に読まれている。今号は青函走行用のEH800形式機関車が登場し、最新の全国のダイヤ改正の貨物時刻表、機関車運用表、機関車配置表の他、巻頭カラー特集が一刷される。付録に卓上カレンダーや貨物列車運行図表ダイヤグラムがつく。予約は同協会のHP参照。

問：鉄道貨物協会
☎03-5256-0577
www.rfa.or.jp

Informationコーナーで紹介されました

――なぜ今回貨物時刻表を取上げてくださったのですか?

「男の隠れ家」の別冊で「ローカル線の旅」という雑誌を年2回発行していることからお分かりになるかと思いますが、読者には鉄道ファンの方も多いです。「貨物時刻表」をInformationのコーナーで紹介することは、鉄道ファンの読者、特に「撮り鉄」の方々にとっても有益であると思い掲載しました。

「ローカル線の旅2015夏（男の隠れ家別冊）」

――掲載前後の貨物列車に対するイメージ・感想は?

私自身「貨物時刻表」の存在は、以前は全く知りませんでした。いろいろ調べてみると「貨物列車がどの時間にどの駅に停車するか、どの駅でコンテナを積み卸しするのか」ということが分かる書籍ということに気付きました。「青春18きっぷ」で旅行をした際に貨物列車を偶然見つけましたが、鉄道ファンの方は貨物時刻表を見て、目的の貨物列車を撮影するということも分かりました。

――その他鉄道貨物輸送に対するご意見や思い等ありましたら教えてください。

個人的な考えですが、「青春18きっぷ」などの切符で旅行をしながら「貨物時刻表」を活用するということができれば旅の楽しみが広がると思います。

「男の隠れ家」発売元　三栄書房のホームページはhttp://www.sun-a.com/です。

支部自慢
しぶじまん

広島支部
〒732-0057
広島市東区二葉の里3-8-21
JR貨物広島支店内
TEL：082-262-9239　FAX：082-261-1497

広島支部は広島県と山口県を結ぶ山陽線を中心に東西に広がった支部です。

防府地区

萩往還終点（三田尻御舟倉跡）

萩城から三田尻に至る萩往還は、ここ防府が終点です。

参勤交代ではここから船に乗って江戸・大阪に向かいました。

また防府は古くから鱧（はも）漁が盛んに行われており、京都の高級料亭でしか味わえないはも料理を庶民的コストでどこでも食することができます。防府では防府天満宮にかけて「天神鱧（はも）」と呼んでいます。

天神鱧（はも）料理

岩国地区

佐々木小次郎像

錦帯橋は有名ですが、佐々木小次郎は錦帯橋畔で物干竿といわれる長尺な太刀を振う「燕返し」の秘剣を生み出したとの伝説があります。

また清流錦川の軟水を利用した清酒「五橋」もお勧めです。

春の錦帯橋

下関（長府）地区

長府は、政治的・軍事的拠点として1800年の歴史を持つ町です。近年大河ドラマ「花燃ゆ」で放映された高杉晋作挙兵の地「功山寺」は、ここ長府にあります。

功山寺 高杉晋作像

徳山（大津島）地区

新幹線徳山駅ホームからよく見える大津島には、戦時中、人間魚雷「回天」の発射訓練基地がありました。徳山港からフェリーで約30分、島には戦時中の施設がそのまま保存されています。回天記念館もあります。

回天発射訓練基地跡

人間魚雷「回天」

宇部（埴生）地区

埴生 名物「貝汁」

埴生（はぶ）と呼びます。潮干狩が盛んで、国道沿いのドライブインでは名物貝汁を食せます。

株式会社ポポンデッタ

〒101-0021 東京都千代田区外神田3-3-3
TEL（事業推進本部･商品部）：03-3253-2941　ホームページ：http://www.popondetta.com/

～「鉄道っていいね！」と思っていただけるお店作りをしています！～

「鉄道模型のもつ楽しさをより多くの人にお届けし、鉄道模型の力で人と人とのコミュニケーションを活発化する」

その企業理念の下、2016年5月現在、全国に「鉄道模型の店ポポンデッタ」43店舗、「鉄道カフェSTEAM LOCOMOTIVE」3店舗、銀座にて「バー銀座シュッシュッポポン」を展開しております。

「鉄道模型店」というと敷居の高いイメージがあり、また鉄道の趣味自体にお客様のご家族など周囲の方から理解を得にくいことがあるとお客様より伺うことが多くございました。当社では～「鉄道っていいね！」と思っていただける気軽で楽しいお店をつくろう！～というコンセプトを基に、「入りやすく明るいお店作り」「地域密着の情景で気軽に走行体験ができる巨大ジオラマの設置」「接客を重視したスタッフの育成」を柱とした魅力ある店舗づくりを志向しております。また、作る楽しさをお伝えする「ジオラマ教室」の開催、鉄道模型だけではなく、小さなお子様に向けた鉄道の「おもちゃ」や「知育玩具」の展開、親子で楽しめるかわいい「鉄道グッズ」も数多く取り揃えるなど、今までのイメージとは違う鉄道模型店を展開しております。

近年では鉄道模型が走行するジオラマを見ながらコーヒーやお食事、お酒をお楽しみいただく「飲食事業」の展開をはじめました。また、自社による鉄道模型や鉄道グッズなど製品の企画開発をスタート、個人様･企業様向けにジオラマの製作を行う子会社「ポポンデッタクラフト」を立ち上げるなど、幅広い事業展開で多くのお客様にご利用をいただいております。

これからもより多くの皆様に「鉄道模型」だけではなく、「鉄道」そのものの楽しい世界をお伝えすることを目標とし、また喜びとしてまいります。

皆様のご来店心よりお待ち申し上げます！

明るく広い店内です。鉄道模型の走行を楽しめる「レンタルレイアウト」もあります。

模型が走行するジオラマを見ながらお食事やお酒が楽しめる「鉄道カフェSTEAM LOCOMOTIVE」「バー銀座シュッシュッポポン」も展開しています。

オリジナルの模型やジオラマ用品、グッズも開発しております。

レイアウトや商品をコンテナで運ぶことも!!

新しいお店のレイアウトや鉄道イベントでの商材を「12ftコンテナ」で運ぶこともあり、お客様の話題となることもあります。

- JR貨物承認済
- 日本石油輸送株式会社商標使用許諾済
- 日本オイルターミナル株式会社商標使用許諾済
- 株式会社日陸商標使用許諾済
- 日本梱包運輸倉庫株式会社商品化許諾済
- 熊谷通運株式会社商品化許諾済
- いすゞ自動車株式会社商品化許諾済
- WILLAR ALLIANCE株式会社商品化許諾済
- JR九州バス株式会社商品化許諾済

協会ニュース

平成28年7月～8月 行事等の予定

本　部

7月　6日(水)／会誌編集委員会(本部会議室)
7月　7日(木)／第3回輸送品質向上委員会
　　(物流施設見学)
7月　8日(金)／全国事務局会議(如水会館)
7月20日(水)／第2回利用促進委員会(本部会議室)
8月　3日(水)／会誌編集委員会(本部会議室)

支　部

●**北海道支部**　7月28日(木)･29日(金)／役員等施設見学会(苫小牧地区)
●**東 北 支 部**　8月29日(月)／第2回幹事会(盛岡市)

お知らせ

当協会ホームページ(トップページ)に、**「平成27年度本部委員会報告書」**と**「荷擦れ･荷崩れ防止養生事例集」**を掲載しました。ぜひご覧いただき、ご活用ください。

▼当協会ホームページ(トップページ)

MONTHLY かもつ・7月号　第66巻・第7号　2016年（平成28年）7月1日発行（毎月1日発行）

発行／公益社団法人 鉄道貨物協会
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-8-4 吹田屋ビル4階
☎03-5256-0577　FAX03-5256-9220
鉄道貨物協会インターネットホームページアドレス http://www.rfa.or.jp

編集／ 公益社団法人 鉄道貨物協会・日本貨物鉄道株式会社
（株）ジェイアール貨物・リサーチセンター
印刷／（株）恒陽社印刷所活版事業部

MONTHLY かもつ

平成28年7月1日発行（毎月1回1日発行）昭和26年3月12日 第三種郵便物認可

MONTHLYかもつ 7月号 第66巻 第7号

本体価格400円（税・送料別）会員の購読料は年会費に含まれます）

ISSN 0913-9850